

平成 19 年 度 学 校 評 価 計 画 書

石川県立中島高等学校

重点目標(1) 基本的な生活習慣を確立し、人間としての正しい在り方や生き方を実現する。

具体的取組	主担当	現 状	評価の観点と達成度判定基準	判定基準	備考
登校時等における遅刻指導の徹底を図る。	総務課 生徒指導 学年会	始業に遅刻する生徒が若干見られ、授業時の緊張感保持や集団行動意識の確立に影響が出ている。	【成果指標】(内部) 登校時等に遅刻をする生徒が A 5%未満であった B 10%未満であった。 C 20%未満であった。 D 20%以上であった。	評価がC以下の場合 は、原因を究明し改善 を図る。	評価は 7月と 12月 の2回
生徒に対し、容儀指導の意義を理解させ、指導の徹底を図る。		年数回、服装検査を行っており、概ね良好であるが、普段でも容儀が整っている必要がある。	【成果指標】(内部・生徒・保護者) 容儀がきちんと整っている生徒の割合が、 A 95%以上であった B 90%以上であった。 C 80%以上であった。 D 80%未満であった。	内部評価がC以下の 場合は、原因を究明し 改善を図る。	評価は 7月と 12月 の2回
授業に集中できない生徒に対して、個別指導を行う。		授業中、集中力に欠け、私語やいねむりなどが見られることがある。	【努力指標】(内部・生徒) 立ち歩きや私語等をして授業に集中できない生徒に対し、個別の事後指導を行なっていると する教職員または生徒が A 95%以上であった B 90%以上であった。 C 80%以上であった。 D 80%未満であった。	生徒の評価がC以下 の場合は、教職員の意 識改革を促す。	評価は 7月と 12月 の2回
環境美化週間を設定し、保健委員活動を活発にする。	保健指導課 学年会	清掃当番箇所の清掃を丁寧に行わない生徒が一部見られる。	【努力指標】(内部) 環境美化週間を月1回設けて、保健委員の活動を活発にする。 A 委員会活動が活発になり年間を通して美化活動が全て計画通りに実施できた。 B 委員会活動は活発になり環境美化週間は計画通りに実施できた。 C 委員会活動は活発になったが美化活動がやや物足りなかった。 D 委員会活動はあまり活発にならず、美化活動も物足りなかった。	評価がC以下の場合 は、取り組みを見直す。	評価は 7月と 12月 の2回
生徒一人ひとりをよく観察し、問題行動の再発を防ぐ。	生徒指導 教育相談 学年会	同じ生徒が問題行動を繰り返す場合があり、再犯に至らないための対策が必要である。	【成果指標】(内部) 生活態度改善委員会等で教職員の意思疎通を図ることにより A 生徒の生活態度・授業態度が、大いに改善された。 B 生徒の生活態度・授業態度が、ほぼ改善された。 C 生徒の生活態度・授業態度は、あまり変化はみられない。 D 生徒の生活態度・授業態度は、かえって悪くなった。	評価がC以下の場合 は、原因を究明し改善 を図る。	評価は 7月と 12月 の2回

重点目標（２）基本的な学習習慣を身につけることで学習に対する意欲を高め、基礎基本の習得とともに発展的な学力も養う。

具体的取組	主担当	現 状	評価の観点と達成度判定基準	判定基準	備 考
個々の生徒のレベルに対応したより適切な授業を行い、習熟度別少人数学習のメリットを生かすさらなる工夫を行う。	教 務 教 科	個々に適した学習を行い、設定した到達目標の実現や達成感を持たせる努力が必要である。	【満足度指標】(内部・生徒) 数学や英語の習熟度別授業は、数学や英語をを理解するのに役立っていると感じている教職員または生徒が A 90%以上であった B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。	生徒評価において、評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
指導法の改善や教材の開発を進め、授業公開・研究授業・研究協議を充実させる。		教員の日々の努力が生徒の向上につながる。教員のたゆまぬ研鑽がさらに必要である。	【努力指標】(内部) 学習指導計画を工夫し、授業研究を計画的に実施できたとする教員が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
		教える側の熱意が生徒の学習意欲を刺激する。教師の熱意が生徒に伝わるよう工夫する必要がある。	【満足度指標】(生徒) 生徒による授業評価において、「先生は、生徒たちの学習意欲を一層高めようと努力している。」と答える生徒の割合が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は日々行う
		生徒の実態に合わせた分かる授業を展開しているが、生徒の授業に対する満足度は必ずしも高くない。	【満足度指標】(生徒) 生徒による授業評価において、「どの授業も、わかりやすく理解できる。」と感じている生徒が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は日々行う
		生徒の学習成果の伸長度は、生徒によって様々である。遅れた生徒への対応をより丁寧に行う必要がある。	【満足度指標】(生徒) 「学習の遅れた所は、特別に指導してもらえるので不安はない。」と思っている生徒が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
放課後・長期休業中を活用して特別学習指導を実施する。					
適切な家庭学習課題を与えるなどして家庭学習の定着を図る。	教 務 学 年 会 教 科	予習・復習が不十分であり、学習習慣を身につけさせるための家庭課題学習が必要である。	【努力指標】(内部・生徒) 適切な家庭学習課題を準備し、事後指導も丁寧に行ったとする教員が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
生徒の読書意欲を刺激し、図書室の利用の増大を図る。	教 科 図書館指導課	読書に親しむことで、いろいろな価値観に触れ、思考力や表現力、そして思いやりの心を培う必要がある。	【成果指標】(内部) 利用者数、貸し出し数が増え、読書に親しむ生徒が増加する。 A 80%以上の生徒が図書を借り、読書活動が活発である。 B 50%以上の生徒が図書を借りた。 C 図書を借りる生徒は50%以下だ。 D 図書を借りる生徒は少ない。	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回

重点目標（３）生徒の社会性や自立心を育て、進路意識の早期芽生えと適切な進路選択を実現すべく、効果的な進路学習を実施する。

具体的取組	主担当	現 状	評価の観点と達成度判定基準	判定基準	備 考
<p>進路意識向上のために、講演会や講話を数多く実施する。</p>	<p>教 務 進 路 学 年 会</p>	<p>「学ぶこと」と「働くこと」は、生涯にわたって行われることである。生涯を生き抜くための、将来への指針を自ら見つけ出させる指導を心がけているがまだ不十分である。</p>	<p>【努力指標】(内部) 進路意識を持たせるために、外部講師による講演会・講演会、内部講師による講話などを、各学年においてそれぞれ年間3回は開催する。 A 講演会等を計画通り実施し、実施率は100%であった。 B 実施率は80%以上となった。 C 実施率は60%以上となった。 D 実施率は60%未満となった。</p>	<p>評価がC以下の場合 は、取り組みを見直す。</p>	<p>評価は 年度末 に行う</p>
<p>インターンシップ職場見学を第1学年で実施し、身近な体験談を聞くことにより、自分の進路を考え始めるきっかけとする。</p>		<p>職場体験を通して社会で働くことの厳しさを知り、併せて自己の進路について考えさせる指導が重要である。</p>	<p>【満足度指標】(生徒・内部・保護者) 第1学年において、「職場見学をきっかけとして、自分の進路について考えるようになった。」とする生徒の割合が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。</p>	<p>生徒の評価がC以下 の以下の場合、取り 組みを見直す。</p>	<p>評価は 9月に 行う</p>
<p>インターンシップ職場体験を第2学年で実施し、より良い進路選択のきっかけとする。事前指導を十分にを行い、受け入れ企業に事業の目的を理解してもらい、成果が挙がるようにする。</p>		<p>生徒が自分の進路を具体的に考えるためには、情報の収集、職場見学、事前学習活動などが欠かせない。これらの活動に関して、これまで以上に入念な準備をして望む必要がある。</p>	<p>【成果指標】(内部・生徒・保護者) 第2学年において、「インターンシップ職場体験後、将来の進路について具体的に考えるようになった。」とする生徒の割合が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。</p>	<p>生徒のC以下の場合 は、取り組みを見直す。</p>	<p>評価は 9月に 行う</p>
<p>進路に応じた個別指導を促進するために、進路指導室への生徒の来室を促し、進路実現のために何が必要かを考える機会を増やす。</p>		<p>基礎学力が不足し、上級学校へ進学しても、大学の講義についていけない生徒や、入社試験の一般常識テストで合格点を取れない生徒もいる。進路指導室等での個別指導を充実させる必要がある。</p>	<p>【成果指標】(生徒) 第3学年において、「進路指導室を訪れ、進路相談や情報収集を行った」とする生徒の割合が A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。</p>	<p>評価がC以下の場合 は、原因を究明し改善 を図る。</p>	<p>評価は 年度末 に行う</p>

重点目標（４）演劇教育を通して生徒の人間形成を図るとともに、本校における演劇教育の永続的実施が可能な組織作りを進める。

具体的取組	主担当	現 状	評価の観点と達成度判定基準	判定基準	備 考
演劇コースにおいて、本校教職員のみで実施できる授業の割合を高める。	総務 教務 演劇教育推進	設置6年目となる演劇コースの演劇の授業は、これまで、外部の講師に頼るものが多かった。今後は、校内の教職員で開講できる授業を増やす必要がある。	【成果指標】(内部) 「演劇に係る授業を、どれか1種類でも指導できる。」とする教諭が A 7人以上である。 B 5人以上である。 C 3人以上である。 D 3人未満である。	評価がC以下の場合 は、原因を究明し改善 を図る。	評価は 年度末 に行う
演劇コースの成果発表として、卒業公演を成功させる。	演劇教育推進	卒業公演の準備は、約1年間かけて行われる。そのため、綿密な計画のもと、準備を進めなければならない。	【成果指標】 (内部・生徒・保護者) 「演劇教育の集大成としての卒業公演が成功裏に行われた。」とする教師、生徒、保護者の割合が、それぞれ A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 70%以上であった。 D 70%未満であった。	内部評価が、C以下 の場合は、原因を究明 し改善を図る。	評価は 7月に 行う
七尾市内の多くの中学校において、外部公演を実施する。		外部公演はこれまで外部からの要請に応じて行っていたが、本校の今後のあり方を考えると、七尾市内の公的機関、特に中学校における実施が不可欠である。	【成果度指標】 (内部・生徒・保護者) 七尾市内の中学校における外部公演の実施校数が A 7校以上であった。 B 5校以上であった。 C 3校以上であった。 D 3校未満であった。	評価がC以下の場合 は、取り組みを見直す。	評価は 年度末 に行う
演劇教育推進課の機能を改善し、全教員が対応できる永続的な演劇教育を目指す。	教育統計広報 演劇教育推進	本校における演劇教育は、一部の教職員に大きな負担が掛かる形で実施されてきた。全職員が役割を分担して行える演劇教育を目指す必要がある。	【成果指標】(内部) 「全教員で演劇教育を推進できるようになった。」とする教職員の割合が A 90%以上である。 B 70%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	評価がC以下の場合 は、原因を究明し改善 を図る。	評価は 年度末 に行う